

佐野市立 葛生義務教育学校

義務教育学校 効果検証アンケート

(令和6年7月実施)

# 結果分析

佐野市 教育委員会

学校適正配置課

**【児童生徒（※3年生以上）対象】** ※統合前の学校経験のある児童生徒  
(回収率 約96%)

《質問項目について》

大きく以下の3項目

- ①義務教育学校になって「良かったこと」
- ②義務教育学校になって「残念なこと・困っていること」
- ③葛生義務教育学校の好きなところ・自慢できるところ

項目①②については、「たくさんある」「いくつかある」「あまりない」「まったくない」の中から自分の思いに近いものを選択させ、「たくさんある」「いくつかある」を選択した場合には、その内容について自由記述させる形式をとった。③は自由記述。

《集計結果及び考察》

項目①で「良かったことがある」と回答した児童生徒の割合は、全体の80%で、義務教育学校になったことを好意的に受け止めている児童生徒が多数と捉えることができる。ただ、学年差が大きく、調査対象中最も若い3年生で肯定的な回答の割合が100%だったのに対し、最高学年の9年生では60%にとどまった。

また、項目②「残念なこと・困っていることがある」と回答した児童生徒の割合は21%で、学校が変わったことによる何らかの不満や悩みを抱えている児童生徒は全体の約5分の1だった。

「良かったこと」についての自由記述の内容は、「前期課程と後期課程が仲良く交流できるメリット」に触れているものがほとんどだった。前期課程児童は「後期課程生徒と一緒に活動できる心強さ」、後期課程生徒は「前期課程児童と触れ合う中で得られる癒し等」を様々な場面を感じていることが確認できた。

さらに、「前期課程段階から、部活動をはじめ後期課程の生活の様子を知ることができる」「後期課程生徒に様々なシーンで支えてもらえる」等、中1ギャップ解消に関連する内容も多く見られた。

一方「残念なこと・困っていること」に目を向けると、前期課程児童による記述内容は、新たな仲間が増えたことにより生じた「友人トラブル」に関するものがほとんどで、これらはどの小中学校でも日常的に抱えている課題であり、義務教育学校に直結するデメリットとは捉えがたい。これらの回答を除くと「残念なこと・困っていることがある」という回答数の割合は、全体の1割程度にまで減少する。

後期課程生徒からは、運動会や文化祭が以前に比べて小学生よりの内容になったことを残念がる意見や、前期課程児童と一緒にすることで日常の行動を制限されたり騒がしさを感じたりする場面が生じていることを指摘する意見があげられていた。項目①で9年生の肯定回答割合が低かったのも同様の理由からと推測できる。

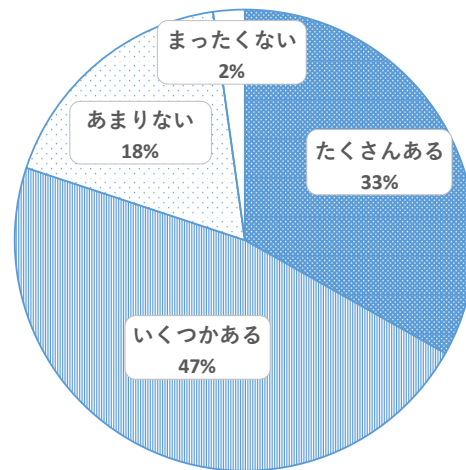
項目③「好きなところ・自慢できるところ」の回答のうち、一番多かったのは「恵まれた新しい施設設備や学校環境に関するもの」で、次に多かったのは「前期課程と後期課程が温かく交流できていること」についての内容だった。1～9年生と一緒に生活できる新たな枠組みの義務教育学校を、多くの児童生徒が好意的に受け止めていることが、ここからもうかがわれた。

# 義務教育学校に関する児童生徒アンケート結果集計表

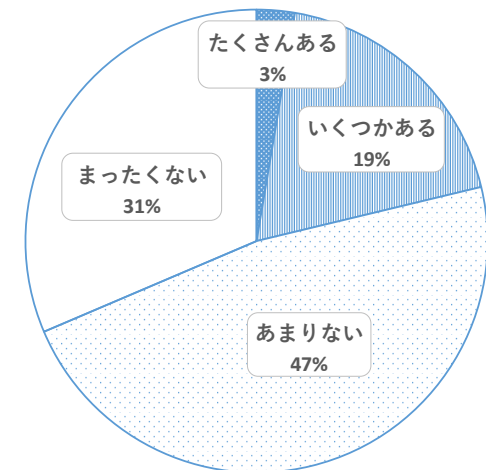
児童生徒		質 問	
学 年	回 答	①	②
		こ 良 と っ た	こ 残 と 念 な
3	たくさんある	17	0
	いくつかある	15	3
	あまりない	0	9
	まったくない	0	20
	合 計	32	32
	肯定割合	100%	9%
4	たくさんある	6	4
	いくつかある	13	5
	あまりない	6	8
	まったくない	1	9
	合 計	26	26
	肯定割合	73%	35%
5	たくさんある	13	1
	いくつかある	19	10
	あまりない	8	21
	まったくない	0	8
	合 計	40	40
	肯定割合	80%	28%
6	たくさんある	12	0
	いくつかある	13	2
	あまりない	2	16
	まったくない	0	9
	合 計	27	27
	肯定割合	93%	7%
7	たくさんある	10	0
	いくつかある	18	7
	あまりない	3	21
	まったくない	1	4
	合 計	32	32
	肯定割合	88%	22%
8	たくさんある	9	0
	いくつかある	10	6
	あまりない	7	12
	まったくない	0	8
	合 計	26	26
	肯定割合	73%	23%
9	たくさんある	8	1
	いくつかある	18	9
	あまりない	14	20
	まったくない	3	13
	合 計	43	43
	肯定割合	60%	23%
合 計	たくさんある	75	6
	いくつかある	106	42
	あまりない	40	107
	まったくない	5	71
	合 計	226	226
	肯定評価割合	80%	21%

## 義務教育学校になったことについての思い (3年生以上の児童生徒)

① 義務教育学校になって良かったこと



② 義務教育学校になって残念なこと



※「肯定割合」：各質問に対して「たくさんある」「いくつかある」と回答された数が占める割合

## 【保護者対象アンケート調査】

(回収率 約 87%)

### 《質問項目について》

下表各項目について、義務教育学校となったことによるメリットが確認できたか、「とてもそう感じる」「多少そう感じる」「あまりそう感じない」「全くそう感じない」「判断できない」の5つの中から選択回答

(義務教育学校によるメリット調査項目)

《教職員用》	《保護者用》
(1) 児童生徒について (教職員用・保護者用共通項目)	
①学校全体の活気	
②学年上下縦のつながり	
③同学年間横のつながり	
④思いやりの心育成	
⑤中1ギャップ解消	
⑥不登校児童生徒の変容	
⑦問題行動の抑制・解消	
⑧多様な考え方との出会い	
⑨学力の向上	
⑩体力の向上	
(2) 職員体制等について	
①小中教員による相互理解	①学校への相談のしやすさ
②一部教科担任制による効果	②乗り入れ指導による効果
③乗り入れ指導による効果	③教職員の人数による安心感
④組織的な勤務体制	
⑤児童生徒に関する情報共有	
(3) その他	
①充実した施設設備環境	①充実した施設設備環境
②CS による地域からの支援の充実	②学校・地域・保護者の連携
※CS：コミュニティースクール	③PTA 活動の負担軽減

この他、上記項目以外でメリットとして感じていることについて、また、義務教育学校によるデメリットと感じていることについて、自由記述形式での回答を求めた。

### 《集計結果及び考察》

義務教育学校によるメリットとして、16の調査項目のうち肯定的回答が7割を超えていたのは6項目であったが、「判断できない」という回答を除いて集計すると、以下の7項目で肯定的回答が75% (全体の4分の3) を超えていた。

- (1) ①「学校全体の活気」 89%  
 ②「学年上下縦のつながり」 81%  
 ③「同学年間横のつながり」 81%  
 ④「思いやりの心育成」 79%  
 ⑧「多様な考え方との出会い」 77%

(2) ③「教職員の人数による安心感」 79%

(3) ①「充実した施設設備環境」 87%

この中でも特に肯定的回答が多かった項目は、(1) ①「学校全体の活気」と(3) ①「充実した施設設備環境」だった。

これまで複式学級を抱えた小規模校が多かったことから、義務教育学校化により一定の児童生徒数が確保されたことをメリットとして感じている保護者が多いと捉えることができる。また、新しい校舎等、学習環境のハード面に対しても一定の評価が得られていることが確認された。

一方で、(1) ⑦「問題行動の抑制・解消」⑨「学力の向上」⑩「体力の向上」(2) ①「学校への相談のしやすさ」等の項目では肯定的回答の割合は低く、きめ細かい指導や寄り添いが実践されてきた小規模校の良さが失われてしまうことへの懸念が感じ取れる内容となった。

メリットに関する自由記述には、「児童生徒数が増えて人間関係の幅が広がったことによる安心感」や「前期課程児童が後期課程生徒の生活の様子を日常的に見ることができる良さ」に関する内容が多く、後期課程の学校生活をイメージしやすくなったことによる中一ギャップ解消について書かれた意見も見られた。

このほか「1～9年生みんなで行う運動会」を歓迎する意見や「バス通学により登下校時の事故の不安が無くなった」等の意見が見られた。

デメリットに関する自由記述については、項目選択の結果に表れていたのと同様、「人数が増えたことによる人間関係の希薄化」、「教職員によるきめ細かい関わりの不足」等を懸念する意見が多く見られた。また、「学校が遠くなったことによる通学の負担」を訴える意見や「PTA 活動に関して、関心の薄い保護者と重い負担を背負っている保護者に二極化している」という悩みについて書かれた意見も複数見られた。全学年で行う運動会については、肯定的な意見がある一方で、種目数が減り待機時間が長くなることから学年を分けて実施する方がよいという意見もあげられていた。

今回の調査により、人間関係の幅が広がり、多様な年齢層と一緒に生活できる義務教育学校のメリットは十分に認めつつも、以前の小規模校の良さ、特に教職員による児童生徒へのきめ細かい関わりが失われてしまうことへの不安も同時に感じている保護者の実態を把握することができた。開校4年目でアンケート調査を実施したあそ野学園に比べ、今回の調査実施が開校後間もないことから、児童生徒、教職員、保護者間の相互理解がまだ十分に深められていないことが結果に影響しているとも考えられ、年数の経過により校内の信頼関係が構築されると、保護者アンケートの結果にも変化が表れてくることが予想される。義務教育学校としての落ち着きが見られた段階で再度アンケート調査を実施すると、調査結果の妥当性がより高まると考えられる。

# 義務教育学校によるメリット 保護者アンケート集計表

質問項目 回答	(1) 児童生徒について										(2) 職員体制について			(3) その他		
	① 活学 気校 全 体 の	② つ学 な年 が縦 り上 下	③ 横同 つ学 な年 がり	④ 思 い や り	⑤ 解 消 中 一 ギ ャ ッ プ	⑥ 不 登 校 改 善	⑦ 解 消 問 題 行 動	⑧ と多 の様 な考 え	⑨ 学 力 向 上	⑩ 体 力 向 上	① し相 や談 すさ	② 指 導 乗 り 入 れ	③ に多 よ く の 職 員 安 心	① 環 境 施 設	② 保 護 者 の 地 域 連 携	③ 負 担 軽 減
とても感じる	66	48	52	45	35	24	12	37	16	23	30	31	45	64	24	17
多少感じる	85	91	85	83	52	53	41	83	30	52	60	65	85	80	67	66
あまり感じない	17	27	29	31	36	47	58	29	81	60	53	31	28	19	53	45
まったく感じない	2	5	3	4	4	8	20	7	15	13	14	11	6	2	11	13
判断できない	7	6	8	14	50	45	46	21	35	29	20	39	13	12	22	36
合計	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177
プラス評価割合	85%	79%	77%	72%	49%	44%	30%	68%	26%	42%	51%	54%	73%	81%	51%	47%
合計 「判断できない」 を除く	170	171	169	163	127	132	131	156	142	148	157	138	164	165	155	141
プラス評価割合 「判断できない」 を除いて集計	89%	81%	81%	79%	69%	58%	40%	77%	32%	51%	57%	70%	79%	87%	59%	59%

(各質問項目において「義務教育学校によるメリットが感じられるか」について)

「とても感じる」  
「多少感じる」 } プラス評価

「あまり感じない」  
「まったく感じない」 } マイナス評価

「判断できない」 …… 評価不能

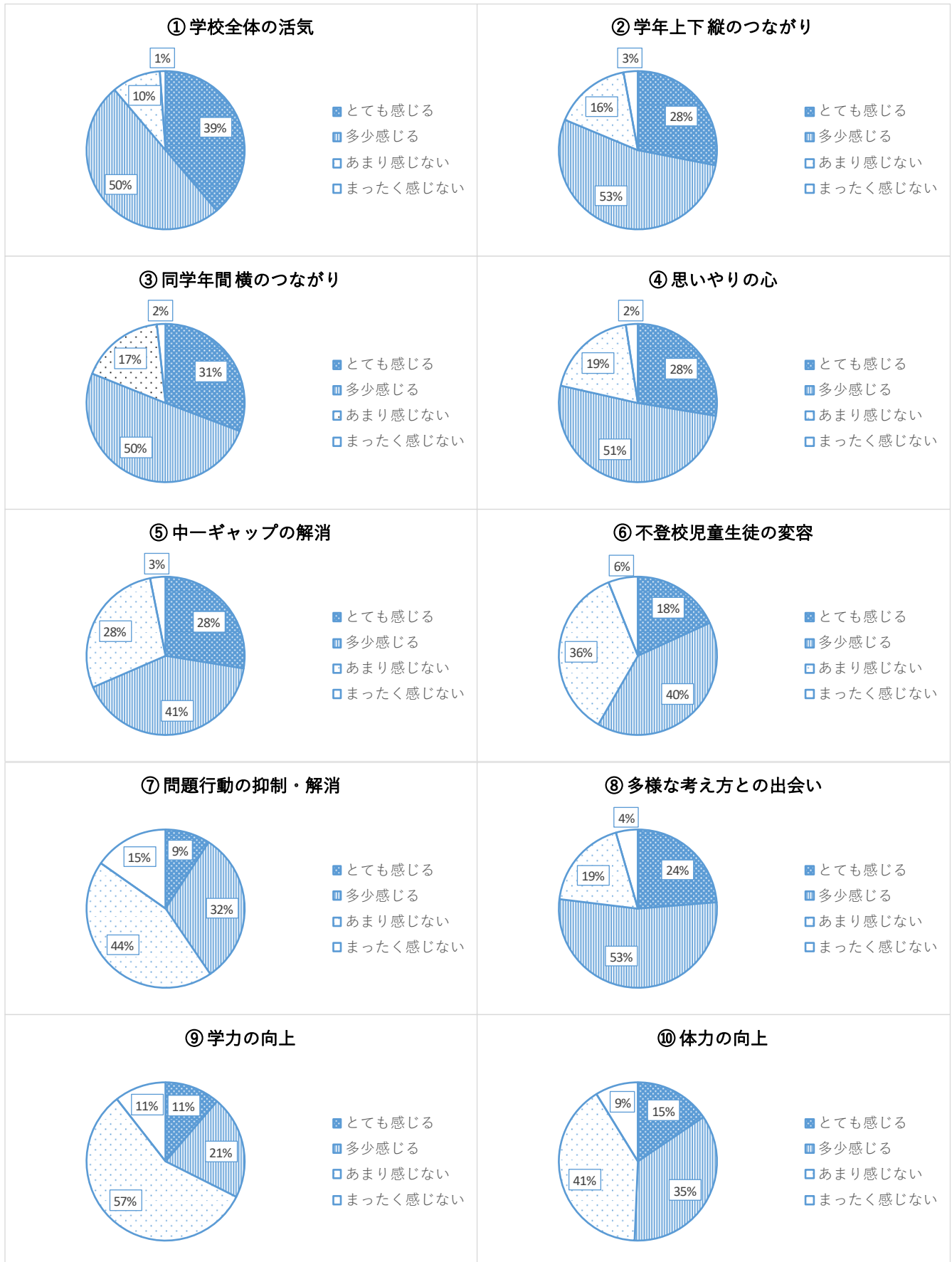
※「プラス評価割合」：「とても感じる」+「多少感じる」が回答数に占める割合

「判断できない」という回答を集計から外して割合を求めています。

# アンケート集計【保護者対象】

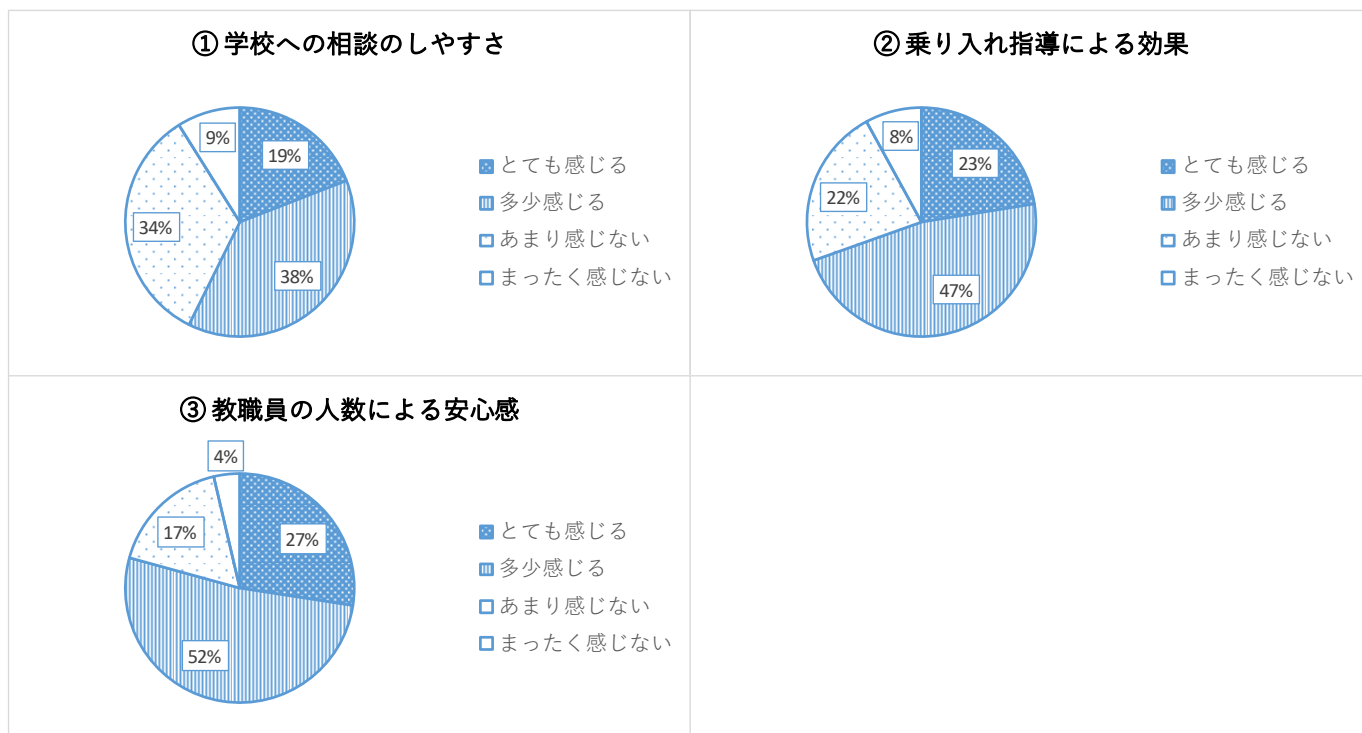
「判断できない」という回答を集計から外して割合を求めています。

## 義務教育学校によるメリット (1) 児童生徒について

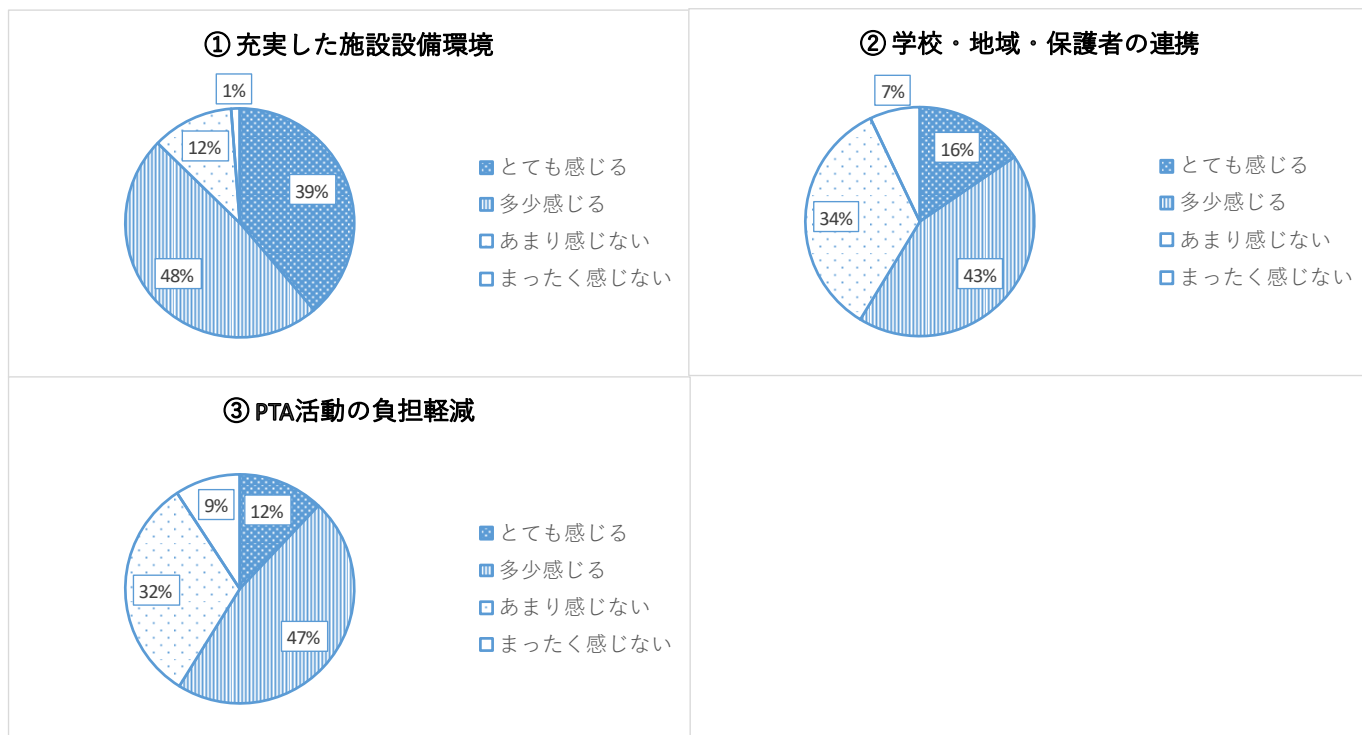


「判断できない」という回答を集計から外して割合を求めています。

## 義務教育学校によるメリット (2) 職員体制について



## 義務教育学校によるメリット (3) その他





## 【教職員対象アンケート調査】

(回答教職員数 43 名)

### 《質問項目について》

下表各項目について、義務教育学校となったことによるメリットが確認できたか、「とてもそう感じる」「多少そう感じる」「あまりそう感じない」「全くそう感じない」「判断できない」の5つの中から選択回答

(義務教育学校によるメリット調査項目)

《教職員用》	《保護者用》
(1) 児童生徒について(教職員用・保護者用共通項目)	
①学校全体の活気	
②学年上下縦のつながり	
③同学年間横のつながり	
④思いやりの心育成	
⑤中1ギャップ解消	
⑥不登校児童生徒の変容	
⑦問題行動の抑制・解消	
⑧多様な考え方との出会い	
⑨学力の向上	
⑩体力の向上	
(2) 職員体制等について	
①小中教員による相互理解	①学校への相談のしやすさ
②一部教科担任制による効果	②乗り入れ指導による効果
③乗り入れ指導による効果	③教職員の人数による安心感
④組織的な勤務体制	
⑤児童生徒に関する情報共有	
(3) その他	
①充実した施設設備環境	①充実した施設設備環境
②CS による地域からの支援の充実	②学校・地域・保護者の連携
※CS：コミュニティースクール	③PTA 活動の負担軽減

この他、上記項目以外でメリットとして感じていることについて、また、義務教育学校によるデメリットと感じていることについて、自由記述形式での回答を求めた。

### 《集計結果及び考察》

義務教育学校によるメリットとして期待される17の調査項目中10項目で肯定的回答が7割を超えていたが、職種によっては捉えにくい内容項目もあるため「判断できない」という回答を除いて集計したところ、以下の13項目で肯定的回答が75% (全体の4分の3) を超えていた。

- (1) ①「学校全体の活気」 95%  
 ②「学年上下縦のつながり」 90%  
 ③「同学年横のつながり」 86%  
 ④「思いやりの心育成」 90%  
 ⑤「中1ギャップ解消」 94%

- ⑧「多様な考え方との出会い」 95%
- (2) ①「小中教員による相互理解」 92%
- ②「一部教科担任制による効果」 90%
- ③「乗り入れ指導による効果」 75%
- ④「組織的な勤務体制」 92%
- ⑤「児童生徒に関する情報共有」 95%
- (3) ①「充実した施設設備環境」 93%
- ②「コミュニティースクールによる地域からの支援の充実」 94%

これらの結果は、義務教育学校に求められる多くのメリットを、本校に勤務する教職員のほとんどが感じていることを示している。

中でも(1) ①「学校全体の活気」⑧「多様な考え方との出会い」(2) ①「小中教員による相互理解」の3つの項目については肯定的評価の割合が95%を超え、そのほかの項目についても、判断が可能だった教職員のほぼ9割以上が義務教育学校による効果を実感している。

一方で、肯定的回答の少なかった項目は、(1) ⑥「不登校児童生徒の変容」⑦「問題行動の抑制・解消」⑨「学力の向上」⑩「体力の向上」の4つの項目であり、これらについては、義務教育学校による特別な効果を認めている教職員は少ないと言える。

メリットに関する自由記述には、「前期課程児童が後期課程に進んで成長していく姿を目にできる」「児童生徒に関する情報をより広く共有できる」といった児童生徒指導上のメリットに触れた意見のほか、「全学年共通デザインの体育着により保護者の購入負担が軽減される」等、保護者サイドに立った意見も見られた。さらに、地元有志団体により寄贈設置されたスライド式電子黒板が効果的に授業に活用されていることについて書かれた意見もあった。

デメリットに関する自由記述については、「前期と後期の日課調整に伴う難しさ」、特に、「スクールバスの発車時刻の関係で前期児童の下校が遅くなり、前期課程教員の放課後校務の時間が削られていること」に触れている記述が複数見られた。また、義務教育学校になったことで、「本来成長の大きなきっかけともなる小中の区切りが見えなくなり、これまで6年生に必要とされてきた自覚も曖昧なものとなっている」という意見もあった。

総括的に捉えると、保護者に比べて、学校生活に直接関わっている教職員の方が、義務教育学校のメリットを、より肯定的に受けて止めていることを示す調査結果となった。葛生義務教育学校は、学年のほとんどが単学級の小規模義務教育学校であるが、前身となる小学校の多くが抱えていた「複式学級」という指導上の困難さが解消され、教育環境面でも恵まれた施設設備が整えられた。こうしたことも今回の調査結果につながっていると考察できる。

# 義務教育学校によるメリット 教職員アンケート集計表

質問項目 回答	(1) 児童生徒について										(2) 職員体制について					(3) その他	
	① 活学 気校 全 体 の	② つ学 な年 が縦 り上 下	③ 横同 つ学 な年 がり	④ 思 い や り	⑤ 解中 消一 ギャ ップ	⑥ 不登 校改 善	⑦ 解問 消題 行 動	⑧ と多 の様 な考 え	⑨ 学 力 向 上	⑩ 体 力 向 上	① 相小 互中 理 解	② 教一 科部 担 任 制	③ 指乗 導り 入 れ	④ 動組 き織 的 な	⑤ 情児 報童 共生 徒 の	① 環 境 施 設	② 支地 援域 か ら の
とても感じる	26	19	12	15	13	3	2	13	2	2	20	9	6	12	23	31	11
多少感じる	11	17	19	21	16	6	12	23	11	4	16	17	15	23	13	8	22
あまり感じない	2	4	5	4	2	20	14	2	13	21	3	2	7	3	2	3	2
まったく感じない	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
判断できない	4	3	7	3	12	13	14	5	16	15	4	14	15	5	5	1	8
合計	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
プラス評価割合	86%	84%	72%	84%	67%	21%	33%	84%	30%	14%	84%	60%	49%	81%	84%	91%	77%
合計 「判断できない」 を除く	39	40	36	40	31	30	29	38	27	28	39	29	28	38	38	42	35
プラス評価割合 「判断できない」 を除いて集計	95%	90%	86%	90%	94%	30%	48%	95%	48%	21%	92%	90%	75%	92%	95%	93%	94%

(各質問項目において「義務教育学校によるメリットが感じられるか」について)

「とても感じる」  
「多少感じる」 } プラス評価

「あまり感じない」  
「まったく感じない」 } マイナス評価

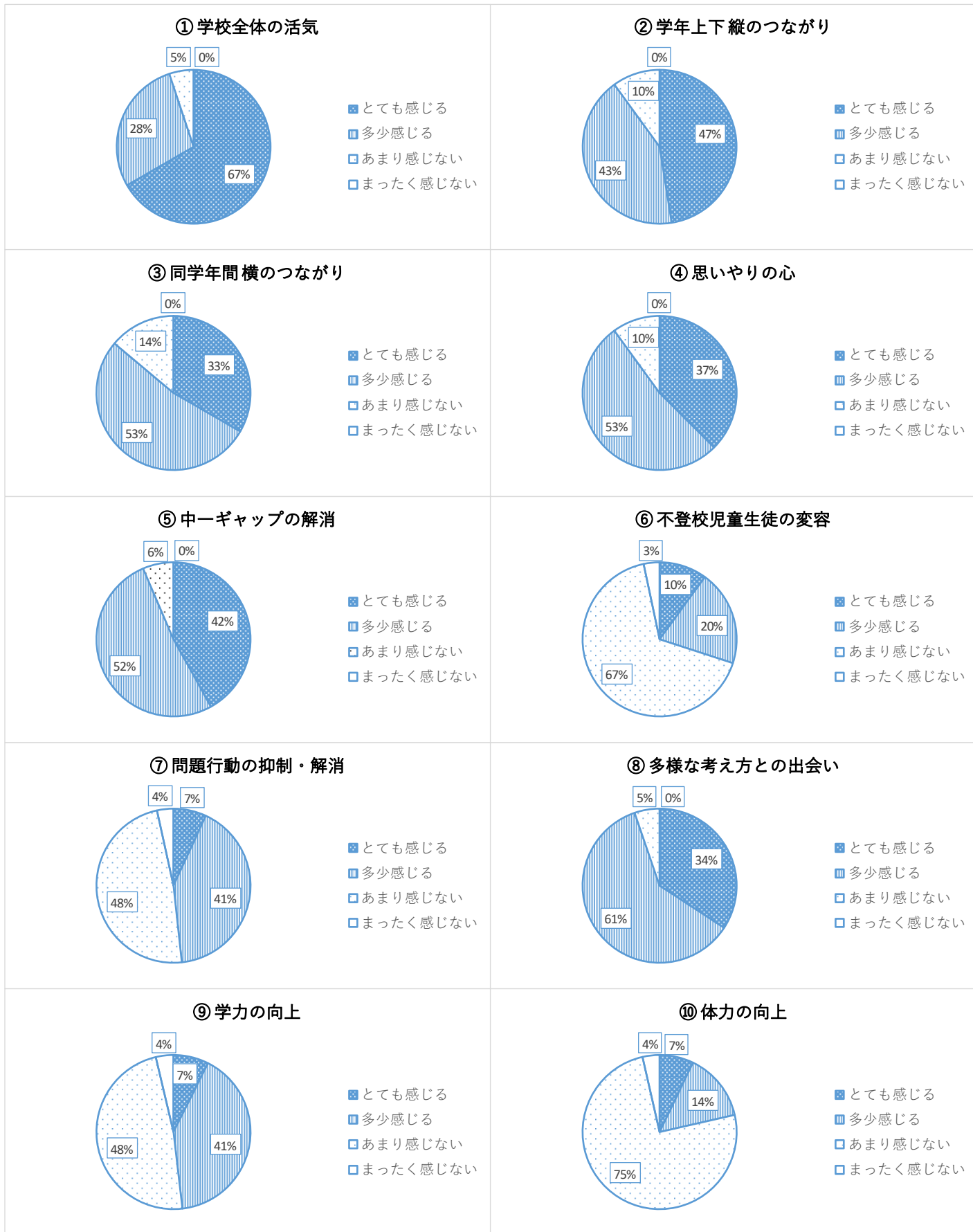
「判断できない」 …… 評価不能

※「プラス評価割合」：「とても感じる」+「多少感じる」が回答数に占める割合

# アンケート集計【教職員対象】

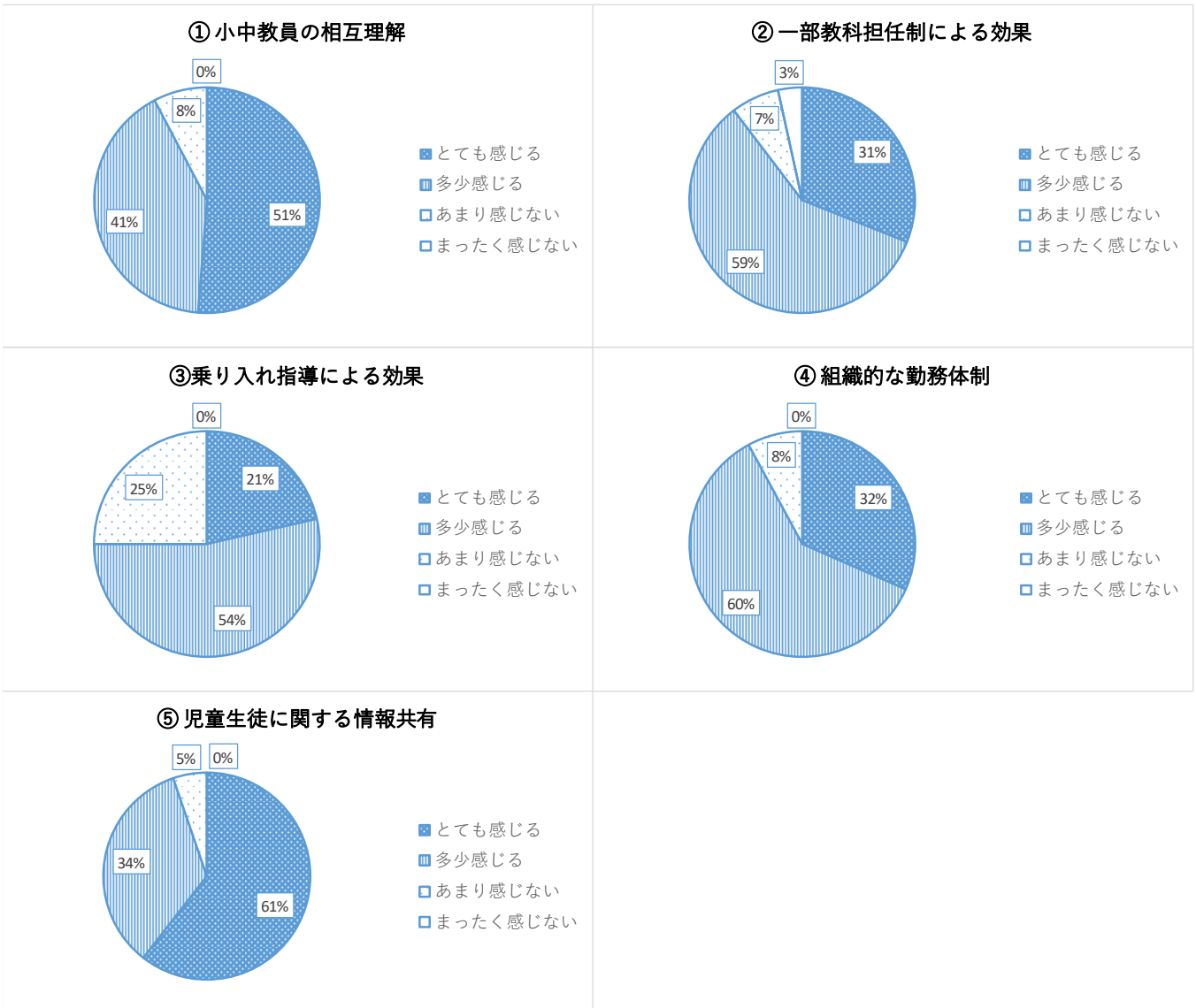
「判断できない」という回答を集計から外して割合を求めています。

## 義務教育学校によるメリット (1) 児童生徒について



「判断できない」という回答を集計から外して割合を求めています。

## 義務教育学校によるメリット (2) 職員体制について



## 義務教育学校によるメリット (3) その他

